

## 「木は光をあびて育つ 人は言葉をあびて育つ」

新年おめでとうございます。2017年の、そして平成28年度3学期のスタートです。本年もよろしく申し上げます。

年末年始の頃に引用される有名な句に、「**去年今年貫く棒の如きもの**」(高浜虚子 76歳の作)という句があります。「去年今年」は、行く年来る年。新年の季語です。去年と今年を貫く棒の如きものとは何か。月日という時間の連続性を比喻したものとか虚子の信念とか、色々考えられるようですが、私は、自分の暮らしや生き方、考え方を貫く不動のものがある。それを今年も大切にしたいという思いで理解しています。この歌の強い響きは私は好きです。

皆さんにとっての、**何か自分を貫く棒の如きものってありますか？**出雲高校へ入学した時の初心。部活を始めた時のやる気。志望大学を定めた時の決意。**何か一本、自分の芯を通す人**であって欲しいなと思います。

では、**出雲高校を貫く棒の如きもの**。私は変わらず「**自立・協働・挑戦**」というキーワードを挙げたいと思いますが、もう一つ、2学期終業式で松田先生と波多野先生が話されたことに触れたいと思います。

松田先生は校歌の歌詞を元に、**探究学習**について話されました。波多野先生は、いじめの問題やコミュニケーションの基本に関係して、**挨拶**の大切さを強調されました。「**探究**」と「**挨拶**」。これもぜひ本校を貫く棒の如きものとしていきたいキーワードです。

ところで、「探究」という言葉が高校で有名になったのは、**京都市立堀川高校**が「**探究科**」という学科を新設して「**探究学習**」を進め、2001年に6人だった国公立大合格者が4年後の2005年には30倍の180人にまで飛躍的に伸びた「堀川の奇跡」と呼ばれた成果が一つのきっかけだったように思います。入学する生徒の質が変わったこともありますが、**探究学習が生徒の能力をもつ**ごく引き出したものと言えます。今後、この「探究学習」が一層重視されていきます。

当時の校長であった**荒瀬克己氏**が、「**奇跡と呼ばれた学校**」という新書本を出しておられます。その本の帯に書いてある言葉を目にした時、私はその表現に感服しました。

### 「木は光をあびて育つ 人は言葉をあびて育つ」

「**探究の陰に言葉あり**」でした。改めて学習場面における**言葉の重要性**を認識しました。「**人は言葉をあびて伸びる**」のです。それは大人でも同じです。

次の学習指導要領では、**アクティブラーニング(AL)**と呼ばれる「**主体的・対話的で深い学び**」の大切さが取り上げられ、大学では既にALが行われています。**ALのポイントはアウトプット**です。自分の意見を発表したり書いたり、他者と交換する。言語活動を活性化することです。本校も今、この**アウトプットができる場を取り入れた授業**を進めていきたいと思っています。

また、「**言葉をあびて育つ**」その言葉は、先生からとか書物からだけではなく友人の言葉ももちろんです。**いじり、からかいでは人は育ちません**。グループワークなどでも、**周囲が前に進めるような対話**ができるといいですね。「**言葉の豊かな使い手**」となって**アウトプットに前向き**になって欲しいと思います。

「**自立・協働・挑戦**」「**探究**」「**挨拶**」といった、出雲高校に貫かせたいキーワードの話をしてきましたが、**出雲高校には忘れてはいけない根底となるキーワードがあります**ね。思い当たりますか？校内にも掲示してある「**至誠(しせい)**」です。「**至誠にして息(や)む無し**」。至誠とは、極めて誠実であること。**誠実に誠をもって物事に対処していく**。これこそが、出雲高校の根底で「**棒のごとく貫くもの**」であって欲しいですね。それぞれの「**至誠**」を感じさせて下さい。

有終の美を飾る3学期、そして実りある一年となるよう一緒に頑張りませう！